

[GRAPEVINE]

第43回ASEV大会に出席して

エグゼクティブ ディレクター 横塚 弘毅 (山梨大学)

ASEV 1992年度大会は、6月24日～27日の4日間アメリカ合衆国ネバダ州リノ市 Bally's Casino Resort で行われた。大会リストによれば、大会への出席者数は約2000名とのこと。アメリカ合衆国以外では、カナダ、メキシコ、台湾、日本、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ、イスラエル、イギリス、フランス、イタリア、ドイツ、チリなどの研究者も参加した。日本からの参加は筆者一人のようであった。筆者は、6月21日に日本を出発し、6月29日に帰国した。本報告は、ロスアンゼルス→東京の帰りの機中で記したものである。

- 6月21日：成田発。同日、ロスアンゼルス経由デイビス着。カリフォルニア大学名誉教授 C. S. Ough 博士宅にて、V. L. Singleton (本年度 Merit Award 受賞者) 及び R. E. Kunkee 両カリフォルニア大学名誉教授、P. J. Williams 博士 (今大会の Honorary Research Lecturer, オーストラリアワイン研究所) と共に会食。Williams 博士から、日本語ワードプロセッサを用いた場合、英文文字で入力して、なぜ、漢字、ひらがな、カタカナの3種が区別されて変換されるのか？、質問されて困惑。
- 6月22日：ASEV JAPAN REPORTS の編集目的及び方針を Singleton 教授に説明。論議の後、ASEV 会長 J. Buechsenstein (ビュクセンスタイン) 氏宛の要請書を作成。
- 6月23日：同上Singleton教授、カリフォルニア大学 M. Matthews 準教授と研究打ち合せ。カリフォルニア大学の研究費と給与の大幅カットとブドウ栽培・ワイン醸造学科改組再編問題で論議。旧知の北村カリフォルニア大教授、K. Uriu 同大元教授らと懇談。
- 6月24日：デイビス発→リノ着。ASEV, Board of Directors Dinner に招待される。このディナーは、ASEV 現役員と元 ASEV 会長との会食パーティーで、恒例となっている。ASEV JAPAN が今までに招待した、V. L. Singleton L. P. Martini, L. P. Christensen の元会長や Akiyoshi 元会長らと再会。
- 6月25日：口頭、ポスター セッションでの論文発表開始。
Buechsenstein 会長夫妻の訪日スケジュールを調整。Buechsenstein 会長から嶋谷幸雄 ASEV JAPAN 会長宛の手紙を受領。
[ASEV JAPAN REPORTS 編集方針]
Buechsenstein 会長, L. M. Boulton エグゼクティブ ディレクター, Singleton 教授と筆者で ASEV JAPAN REPORTS 中での投稿論文掲載の問題について協議。親学会や他の Chapters との関連, American Journal

of Enology and Viticulture との関連等、かなり問題が残るが、Buechsenstein 会長は、次回親学会常任理事会で討議し、ASEV JAPAN の意向にできるだけ沿う方向で解決してくれることを確約。

[Chapter Liaison Committee]

Chapter Liaison Committeeが開催された。出席者は、Buechsenstein 会長、Pat Minnix委員長、R. L. Wilkinsonディレクター、並びに B. D. Carter, S. E. Read及び横塚の各委員であった。年会費、学生に対する奨学金、学会活動中の災害、傷害などに対する保険、各 Chapter 独自の会員などが議題として討議された。日本人学生会員に対する奨学金授与の可能性を打診、要望した結果、これに申請することが認められた。

討議の節目に、早い英語に追いついていけない筆者のために、会長がまとめて英語で通訳、筆者が納得すると次のテーマに進むという運営で討議された。予定1時間を大幅に上回る約2時間の委員会となった。

6月26日：

[大会一般講演等]

口頭発表、ポスターセッション及び機器展示会に出席。大会期間中の論文発表数等は次の通りである。ポスターセッションでは28題、口頭発表のセッションではブドウ栽培関係29題、ワイン醸造関係13題の発表があった。この他に、Supplier Technical Presentations が6題あった。

機器展示会に156社が出品し、228の Booth が設けられていた。

[Merit Award Lecture]

ASEVの最高賞 Merit Award 1992 年受賞者 Singleton 教授の受賞講演があった。同教授は、ワイン化学特にブドウフェノールやワイン熟成の権威として世界的に著名であり、また日本部会誕生に尽力した第一の功労者としてわれわれが忘れてはならない人である。カルフォルニアワインの歴史、カルフォルニアワインの消費動向、未来予測、ワイン醸造での科学的思考の重要性などを指摘した、示唆に富む講演であった。

6月27日：500人以上が出席して Wine & Food Extravaganza (公式晩餐会)が行われた。ディナーの後、新しいASEV執行部の紹介、永年勤続者の表彰、各賞受賞者の紹介、ゲストの紹介がなされた。この後、ダンスパーティー。筆者を誘ってくれる人もいるが、ダンスができないのが残念。

これで全日程を終了。忙しい毎日であった。

6月28日：リノのホテルで帰国準備中、朝5時頃地震あり。ロスアンゼルス付近らしい。飛行機が飛ぶかどうか不安。ロスに到着した所、何の気配も無し。ロス発。

6月29日：成田着。